代々木高等学校 学校経営の目標についての自己評価 2020(令和2)年4月~2021年3月

1 学校教育目標(目指す学校像)

- ○生活背景や学習歴及び進路希望等が多様な生徒が安心して安全に学ぶことができる学校
- ○基礎基本の知識・技能や主体的に課題解決に取り組もうとする意欲等、これからの社会で生き抜いていくことができる学力を身に付けることができる学校
- ○地域の良さを教育に生かすとともに持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する学校

2 現状と課題

(1)生徒について

- ○基礎基本を自分のペースで確実に定着したいと考えている生徒、大集団の中で学習することが困難な生徒、毎日通学することは困難であるが、限られた日数であれば登校でき、提出物等について計画的に学習に取り組める生徒、さらに高校3年間を目標達成のために有効に活用したいと考えている生徒が増加しています。
- ○進路について真剣に悩み相談を求めている生徒が増えています。
- ○宿泊集中スクーリングでは様々なふれあいや出会い、気づきあいがあり、成長を 実感して帰途につく生徒の声が多く聞かれます。
- ○2020 年度末在籍生徒数は742名で、出身都道府県は全国32都道府県となっています。

(2) 教職員と組織について

- ○県内の生徒を対象として行われる年 24 回の通常スクーリング、年間 11 回実施される宿泊集中スクーリング、レポートの添削、その間を縫って行われる個別スクーリングや補講等、教育計画は過密となっていますが、生徒の多様なニーズに的確に対応するとともに、より一層充実した学習指導・生徒指導及び進路指導を実施するために指導の工夫と改善が必要です。
- ○教員増となり組織の一層の充実が図られましたが、初任の教員については言うまでもなく、経験豊かな教職員についても、各種の教育的な課題についての見識を深めるとともに課題解決に向けての実践力を身につけるため、各種の研修の実施に努める必要があります。
- ○面接指導及び添削指導等をより一層適切に行うために非常勤講師の業務内容を 文書等で明確に示す必要があります。
- ○多様な生徒の実態やニーズを的確に踏まえつつ教育目標の実現やさらなる生徒 増を目指して、組織力の強化が必要です。

(3) 学校の在り方・教育の特色、 地域との連携について

- ○学校法人立学校の設置準備を確実に進めるために、これまで以上により一層適切な組織編成を進める必要があります。
- ○学費の変更や法人化に向けての(事前確認事項)諸準備等について、主旨や具体的な内容等を保護者や関係機関等に丁寧に説明し周知する必要があります。
- ○志摩スクーリングでの真珠の学習やシーカヤック体験等、他校にない本校独自の 特色ある教育内容や教育方法についてさらに充実を図り、生徒が行きたい学校、保 護者が行かせたい学校、地域から信頼され必要とされる学校づくりを一層推進する 必要があります。
- ○サポート校との連携協力関係や業務内容等については、精査を進めていますが、 学校法人化を進めるにあたり、教育活動の年間計画やサポート校との打ち合わせ (訪問を含む)の充実を図り、さらに適切なものとなるような措置が必要です。

3 中長期的な重点目標

(前述の課題を踏まえて)

- ○特色ある取り組みについては一層の充実を図るとともに、本校の魅力の一つである個に応じた丁寧な 指導の充実を図る等、学校の魅力化や教育力の強化を進め、教育の実態を的確に発信し、ニーズと提供 できるサービスの整合をめざして、学校のブランド力の強化を目指します。
- ○効果的な生徒募集策による入学生の安定確保及びより一層充実した教育活動を実施するためのバランスのとれた予算編成と執行等、学校経営の安定化を目指した具体策の検討と実施を図ります。
- ○広域通信制のメリットを生かした教育の充実と地域社会への貢献を目指して、行政の協力と理解を得ながら株式会社立学校から学校法人立学校への移行を計画的かつ確実に進めます。
- ○教職員研修については、初任者を主な対象とし、特に教育の現状と課題、これから求められる指導・ 支援のあり方等を中心に実施します。また、研修を通じて、効率的でかつ生徒の指導の一層の充実に結 びつくような、効率的で効果的な指導体制や指導方法等の研究に努めます。

4 本年度の計画(2020年4月~)

インします。

項目 取組内容・指標 結果と自己評価 成果と課題 (1)生徒について ・基礎基本の学力のより一層 ・中学校までに不登校や レポート提出やスク 確実な定着・伸長を目指して、 引きこもり等を経験し、 ーリングの参加につい 学校生活に自信を持てなして計画通り実施できな 計画的なレポート提出や積極 的な面接指導への参加等の指 い生徒が非常に多い中 かった生徒がおり、日 導を進めます。また、これか で、一昨年度に続き、約 頃からの指導の充実を らの社会を生き抜くために必 7割の生徒については、 さらに図る必要があり 要となる力の育成を目指し 計画に沿った確実なレポ | ます。この点を踏まえ、 次年度は、志摩本校生 て、本校ならではの特色ある ートの提出やスクーリン 教育内容や教育方法の開発と グの参加ができ、また、 については、夏草校舎 充実に努めます。 スクーリング時には授業 | での学年別のホームル への積極的な参加や自発 | 一ム活動を充実させま 的な学習も伺え、意欲的 す。 に学ぼうとする生徒が多 ・宿泊スクーリング時 いことを実感していました集団に入りにくい生 す。(感想文参照) 徒がおり、個別指導で ・面接指導や添削指導等の学 ・通信制教育では面接指 対応していますが、そ 習活動を通じて、これからの うした生徒の社会性や 導の時間が限られている 社会を主体的に生き抜くため ことから、スクーリング 協調性等を育むための に必要な力の一つとされるコ では教科書の内容の網羅 指導の一層の工夫が必 ミュニケーション力の育成に 的な指導ではなく、教員 | 要となっています。 努めます。また、生徒の自己 が工夫して指導内容の重 ・教科の特性もあり、 点化を図り、学力の確実 │科目ごとにレポート問 肯定感や役立ち感等を引き出 す学習活動について研究し、 な定着・向上や学習意欲 │ 題量の差があり、これ 生徒が「探求」しようとする の喚起に努めています。 に比例して生徒がレポ 面接指導・添削指導等をデザ レポートでも、学習した | ート学習に取り組む時

内容をどのように活かす | 間に差が見られます。

レポート問題の在り方

か等を問う出題とする等

の工夫をしています。

・特別活動での野外調査 活動のまとめ学習では、 生徒自身が現地で実際に 調べた内容を写真と文字 でまとめて発表する学習 ができました。また、本 校独自の取組の一つであ る学習のふりかえりで は、ユニークで個性的な 課題作成例がみられ、主 体的に課題を解決しよう とする力の育成にかかる 成果がみられました。

・志摩本校生については一・より一層の進路意識 進路調査を登校時にヒアーの醸成と、進路希望調 リングにより実施しまし 査方法の工夫と進路希 た。サポート校の生徒に ついては、8月にサポー 課題です。 ト校に対して一斉に調査 ・ 個別相談の充実、進 依頼をしましたが、その | 路意識の早期からの醸 時点で希望進路が確定し一成、計画的な指導の実 ている生徒が少なかった│施等、一層充実した進 ため、ほとんど回収する 路指導が必要です。 ことができませんでしし・指定校推薦入試をや た。

- ・指定校推薦入試を利用 大学が増えており、進 して大学、専門学校等へ | 路指導を充実する観点 進学する生徒が増加する人から、入試の在り方に 傾向にあります。(大学48 ついての情報収集や研 名、短大5名、専門学校 | 究が必要です。 35名)
- ・志摩本校生で就職を希 望する生徒については、 求人票の確認や模擬面接したで、確実に実績を積 の実施等を通じて進路指|み上げることができま 導の充実を図り、進路の│した。 実現に結びつけました。 (6名:男2名、女4名)

に工夫が必要です。

- 望調査の確実な実施が
- めてAO入試を実施する
- ・就職については希望 者が少ないものの、丁 寧な指導を実施するこ

・生徒の進路意識を醸成する とともに希望進路の実現を図 るために、進路希望に係る一 斉調査を年2回(8月と2月) 実施します。

(2) 教職員と組織 について

・生徒の現状と課題、これか ら求められる教育の方向性、 危機管理の3つをテーマにし た教職員の研修会を年3回実 施し、各人の力量の向上、組 織力の向上を図ります。

・学習の意義、アクティー・日頃から教職員が互 ヴラーニング、コンプラ イアンスをテーマにした | みを積極的に相談した 教員研修会を11月に、新┃り、情報交換したりす 学習指導要領の内容等教 る等、見通しの良い職 務事項に関わる内容の研|場の雰囲気が醸成され 修会を12月に実施しまし た。教育課程や危機管理 等について日頃疑問に思 高いものがあります。 っていることを確認する 好機となりました。

- いに指導上の課題や悩 ており、少人数ですが 教職員の勤労意欲には 但し、教職員数に比し て業務が多岐にわたり 業務量も年々増加して いるため、教職員数の 増が望まれます。
 - ・広域通信制高校とし てより一層充実した教 育活動を実施するため に、PDCA サイクルを確 立し、同僚性を発揮で きる組織作りを目指す 必要があります。
- ・レポートの問題形式 を変更するとともに一 見直しを行った結果、 ました。一方で科目の 特性もあり、問題量に

・添削指導の報告課題(レポ ート)の学習を通じてより一 層確実に生徒が学力を身につ けることができるよう、また 大量のレポートをより一層効 率よく確実に採点し返却でき るようにするため、インター ネットを活用した新たな新教 務システムの導入について研 究を進めます。

- ・学校組織のあり方について、 縦割りの業務推進ではなく、 教職員が日常的に課題や成果 等について情報交換するとと もに、各人・各分掌の進捗状 況を確認しながら業務が遂行 できるよう声かけ、確認、OJT 等の充実を図ります。
- ・法人化推進に向けて、法人 ・生徒の指導の在り方、

・新教務システムについ ては、全科目のレポート の形式を変更するととも 部出題内容についても に、生徒の名前や科目等 をバーコードで入力処理 レポートの精査が進み できるようにしました。 ただし、採点処理につい ては、年度内にシステムしついては大きな差がみ 構築することはできませしられます。 んでした。2020年度から の稼働を目指しました が、多くの課題を残し旧・どのような指導によ システムを併用して来年しり生徒がどのように成 度以降も運用していかざし長したか、そのために るを得ない。

- 教員が増加したため、 特に個別指導で、学習指 導や進路指導の充実が図 られました。

はどのような準備や対 策が必要か等、現場の 声を踏まえた学校経営 の推進に努め、一層の 指導の充実を図る必要 があります。

立学校の業務とその他の業務 業務の効率的な進め方等 ・生徒や保護者、地域 の明確な区別を図り、適正な について、非常勤講師を からの多様で複雑なニ 含め教職員間での打ち合 | ーズに、より一層的確 業務分担を進めます。 わせを綿密に行い、指導│に対応するために、慣 等の留意点についての確 | 行としてきた分掌・担 認を継続的に実施しまし 当業務の在り方及び人 た。 員配置等を見直し、教 職員がそれぞれ適切な 業務量と分担で職務を 遂行できるよう工夫す る必要があります。 (3) 学校の在り ・生徒の指導や支援及び通信 サポート校に対して、 ・文部科学省のガイド 方・地域との連携 年度内に、通信制教育の ラインに基づき本校が 教育にかかる業務や協力・連 携関係については、学校がで について より一層の適正化を図る | 作成した「令和3 きることとサポート校ができ 観点から、文部科学省の (2021) 年度以降の学 ること等を明確にし、文書等 ガイドラインを踏まえて | 校運営について」は年 による取り決めに加え、各サ 本校の改善策等をまとめ「度のできるだけ早い段 ポート校を訪問し、情報交換 た「令和3 (2021) 年度 | 階に通知する予定でし と確認をしながら確実に業務 以降の学校運営につい たが、1月の送付にな て」を送付し、連携の強│ってしまいました。サ 提携・分担を進める必要があ ります。 化と適正化に努めまし、ポート校のなかには、 た。 レポートの提出が予定 より遅れるなどの課題 があるところもあり、 連携の在り方を工夫 し、サポート校での支 援の在り方について充 実と改善を図る必要が あります。 ・志摩市教育員会の支援を得 学校法人及び学校法人 ながら、三重県に学校設置 立高等学校設置に向け ・2020 年度からは旧成 て、三重県に、法人及び 基小学校を本格的に活 計画書を提出するとともに、 学校設置計画書を提出 | 用したいと考えていま 志摩市からお借りした旧成基 小学校の環境施設整備に努 し、受理されました。次 すが、2020年度に教室 年度の本申請に向け、さしてエアコンを設置し め、学校法人立学校の設置に 向けての準備を着実に進めま らに準備を進めます。 た。 す。なお、旧成基小学校(代々 ・志摩市の全面協力の下、 木高等学校新校舎)について 机椅子等の教材教具や備

は、生徒の健康と安全を最優

先にしながら、地域の声も踏

まえて、利活用を進めます。

室整備を進めました。12 ・一層の入学希望者増

品を寄付していただき、

旧成基小学校校舎内の教

- ・通信制教育の一層の充実に 努めるとともに本校教育の魅 力をより一層効果的に発信 し、本校への入学を希望する 生徒の安定確保に努める必要 があります。
- ・年々、不登校経験者や全日 制の仕組みになじめない生徒 が多く在籍するようになって います。

・コロナウイルス感染症が年 度当初より急速に全国に拡大 する状況となり、状況を見極 めつつ、生徒の健康安全を最 優先に感染症防止対策を講じ た。

- 月には志摩本校生を対象 | を目指して、学校の現 に試行的にスクーリング を実施し、好評でした。
- ・2020 年度の転編入生数 | ともにオープンスクー は 184 人 (25%)、退学 | ルの開催及び高等学校 者数は4人(0.5%)とな | の訪問等について検討 っています。アットホートが必要です。 ムな雰囲気、個別の指導 の充実等生徒一人ひとり・学校法人立学校設置 の教育ニーズに対応した に向けて準備を進めて 指導方法、自分のペース おり、従来からの飛躍 でいつでもどこでも本格を目指して、さらに在 的に学べる仕組み等が本 | 校生や保護者等の視点 校の強みであり、この点 | に立った情報発信の在 を活かして入学希望者のしり方について工夫が必 増加に結びつけ、さらに 要です。 確実な経営基盤の確立を 目指します。
- ・志摩本校での学習を中 心にした新パンフレット を作成し、関係する学校 やサテライト教室等に配 |・コロナウイルス感染 布するとともに、教育相 左が特に宿泊集中スク 談で活用を図りました。
- 染症発症者は出ていませ | 係機関との連携を図り んが、コロナウイルス感しつつ、迅速的確に判断 染症拡大防止及び、大地 震等の災害対応の観点かります。 ら、改めて学校での危機 管理の在り方について検 討する必要があります。

- 状や特色をよりわかり やすく情報発信すると

- ーリングにどのように 生徒及び教職員から感 影響するか、行政等関 し、対応する必要があ
 - ・また、感染症対策だ けでなく、防災等の危 機管理的側面からも情 報発信の在り方や具体 的な対応策等について さらに研究と検討が必 要です。